

令和7年度「第11回東日本連携・創生フォーラム」議事録

〈日時／場所〉

令和7年10月24日（金）14:00～16:00／ソニックシティホール 国際会議室

さいたま市／馬場商工観光部長（司会）

定刻となりましたので、ただ今から第11回東日本連携・創生フォーラムを開会いたします。本日、司会進行を務めます、さいたま市経済局商工観光部長の馬場と申します。どうぞよろしくお願ひします。

開会にあたり、まずこちらの動画をご覧ください。

（動画視聴）

ただ今ご覧いただいた映像は、私たちの10年間の歩みをまとめたものです。改めて、これまでの道のりを支えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。今回のフォーラムは、枠組みができて10年という節目の記念すべきフォーラムで、今後の事業や連携のあり方について議論を深められればと考えています。

それでは、次第に沿って進行させていただきます。初めに、本フォーラムを主催いたします、清水勇人さいたま市長よりご挨拶申し上げます。

「1. 開会」

さいたま市／清水市長

皆さんこんにちは。さいたま市長の清水勇人です。「第11回東日本連携・創生フォーラム」の開会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、各自治体をはじめ、関係機関の皆様方には、ご多用の折、本フォーラムにご参加いただき、厚く御礼申し上げます。今回は、令和元年度以来6年ぶりの対面開催として、16都市の皆様にご参加をいただいております。また、関東財務局、関東経済産業局、特許庁、関東地方整備局をはじめとする国や関係機関の皆様にもお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

さて、この「東日本連携・創生フォーラム」は、平成27年3月の北陸新幹線延伸、また、平成28年3月の北海道新幹線開業を契機とし、東日本の新幹線沿線自治体を中心に、都市間連携による地方創生の推進及び地域経済の活性化を図ることを目的に平成27年から開催しており、今回で11回目となりました。

当初は17都市でスタートしましたが、現在は31都市まで連携の輪が拡大しました。各都市において、この広域連携の枠組みを地域課題解決の一つの手法として捉えていただいていることのあらわれではないかを感じております。この間、各都市から様々な提案がなされ、議論をし、皆様にご協力をいただきながら各連携事業を進めてきたところです。

東日本広域周遊ルートの策定や東日本連携センター「まるまるひがしにほん」の開設に加え、「東日本でつなぐSDGs宣言」を行うなど、「環境」や「スポーツ」等の多様な分野での連携事業も協議をしてきました。この東日本連携を通じた出会いの中で、住民同士の交流も生まれています。例えば、本市は、北海道新幹線開業を契機に、函館市様が開催している「グルメワンダーパーク函館」に毎年出店をしており、本市の伝統産業である「浦和のうなぎ」をPRする機会をいただいている。他方で、函館市様には、大宮駅前の「まるまるひがしにほん」を活用したシティプロモーションイベントに出展いただくなど、相互にPRを行っております。

また、昨年度のフォーラムで承認された新幹線による荷物輸送サービスを活用したシティプロモーションイベントが、JR東日本大宮支社様の多大なお力添えをいただきまして、「東日本 秋の旬フェス」と題し、10月23日から26日まで、大宮駅構内において開催しています。先ほど、何人かの市長さんたちと一緒に現場を視察してきたところです。こちらのイベントには、函館市様、青森市様、会津若松市様、小山市様、新潟市様、魚沼市様、福井市様、福井県様に出展いただいている。

今後もこのフォーラムを、新たな出会い、新たな対流を生み出す場、これまで築き上げてきた関係をさらに

強固にしていく場にできればと考えておりますので、各自治体の皆様、関係機関の皆様においては、引き続きご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

本日は、東日本の自治体が一同に会するせっかくの機会ですので、議題に限らず、広範な行政課題についても意見交換ができればと思っています。東日本地域全体の活性化や地方創生につながると考えていますので、皆様におかれましては、忌憚のない意見交換を重ねていただきますようお願ひ申し上げまして、冒頭に当たつての私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

さいたま市／馬場商工観光部長（司会）

続きまして、出席者挨拶に移ります。今回の参加自治体の皆様から一言ご挨拶をいただきたいと思います。大変恐れ入りますが、まず、市長、町長にご出席いただいている都市の皆様から、続きまして、代理でご出席いただいている都市の皆様の順に司会より指名いたします。

「2. 出席者挨拶」

岩手町／佐々木町長

岩手県岩手郡岩手町の佐々木でございます。岩手町は人口 11,000 人の農業の町で、盛岡の北隣りにあります、「いわて沼宮内」という新幹線の駅があります。昨年からこのフォーラムに参加させていただいている。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会津若松市／室井市長

会津若松市長の室井照平です。本市は平成 30 年に加盟をしておりまして、私は今回で 8 回目の参加です。

今まで各都市の皆さんと様々な連携をしてきましたが、今後も、観光や地域振興、それぞれの地域で人口減少対策を様々やってるかと思いますが、この地域をどうやったら活性化できるか、皆さんとともにしっかりと対応させていただきます。なお、公務の都合で途中退席することをお許しいただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

那須塩原市／渡辺市長

みんな会いたかったぞ。はい、すいません。那須塩原です。はるばるやってきました。はるばると言っても、ここから 50 分でございます。今日いらっしゃる街、どれもいい街です。うちもいい街です。ここから 50 分、ぜひ来てください。ありがとうございました。

みなかみ町／阿部町長

皆さん、こんにちは。ご紹介いただいた群馬県みなかみ町長の阿部賢一です。

こちらには上毛高原駅から 40 分で来ました。1 時間掛からずしてさいたま市にお伺いできるということで、本当に親近感を持っているのと、町の名前が「さいたま」と平仮名が 4 つ、「みなかみ」も平仮名 4 つと非常に親近感がある自治体で友好都市も結ばせていただいている。利根川の源流の町で、自然とともにまちづくりを進めています。

最近ニュースでも大変お騒がせしておりますけれども、熊の出没数が大変多くて、人身事故が 5 件発生しており、行政としても、パトロールを強化するとともに、檻や穴を設置して、尊い命ですけれども、人命第一ということで駆除もさせていただいております。

今日は、東日本のそれぞれの自治体と、交流深める機会をいただいたことに改めて感謝申し上げますとともに、自然と温泉、雪が降ればウインターポーツも盛んなみなかみに、ぜひ皆様にお出かけいただければと思っております。どうぞ今日はよろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

魚沼市／内田市長

皆様、こんにちは。魚沼市長の内田です。魚沼市は、ここから新幹線で浦佐駅というところで降りるところでございます。昨年、関越自動車道、「魚沼インター」に名前を変えさせていただいたところです。

当市は 946 平方キロメートルという大変広大な面積を保っていますが、その 85%が森林です。その分、川も多く、また雪も多いわけですが、昨年の冬は、少ないところで 2 メートル、多いところで 4 メートルの中を 2 か月間、3 か月間我慢をして、その雪解け水が豊富な伏流水となって魚沼市産コシヒカリをはじめ、いろいろな農産物を育んでいるところです。今年も、米の心配、7 月、8 月で 15 ミリしか雨が降りませんでしたが、おかげさまで農家の方たちが一生懸命頑張って、一等米比率も 75% ということで、安堵しているところです。いろいろ米の問題があるかもわかりませんが、また一生懸命農家の皆さんと手を組んでいきたいと思っています。

東日本連携については、今年初めて参加をさせていただきますが、いろいろ勉強させていただいて、連携していければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

小松市／宮橋市長

皆さん、こんにちは。石川県小松市長の宮橋勝栄と申します。昨年、北陸新幹線小松駅が開業しまして、それを契機に昨年より参加させていただいており、私自身、こちらに来るのは今回が初めてとなります。

どちらかというと、北陸の地域は関西との結びつきのほうがこれまで強かったんですけども、北陸新幹線開業ということを契機に東日本の皆さんとの連携も非常に大切なと思っています。ぜひ、皆さん方とともに学ばせていただきながら、様々な形で連携をしていければと思ってます。

北陸新幹線小松駅までは、便によりますが、こちらから概ね 3 時間程度です。小松市といえば、大型ショベルカー、ダンプトラックなど建設機械メーカー「コマツ」の発祥の地ですので、そちらも駅の大きなシンボルとなっています。ぜひそういったところも見に来ていただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

函館市／扇谷観光部長

函館市観光部の扇谷でございます。新幹線最北の地からやってまいりました。こちらのフォーラムには、北海道新幹線開業からずっと出させていただいております。

先ほど清水市長からのお話もありましたとおり、私どものイベント、それから「まるまるひがしにほん」でのイベントなど、相互に連携しながら進めていますし、また、昨日から行っています大宮駅の特設ブースでは「はこビュン」を利用し、朝採れのものを私どもも出品しております。函館は海の町ですが、今回、大宮駅には農産物をお持ちしています。ぜひ皆様、帰りにでも覗いていただければと思いますので、よろしくお願ひします。

小樽市／小林東京事務所長

皆さんこんにちは。小樽市東京事務所長の小林です。

小樽市は人口約 10 万人の都市で、昨年度は約 800 万人の方に観光に訪れていただきました、観光を基幹産業の一つとする街です。今日は、様々な各地の取組みを勉強させていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

北上市／平野企画部長

皆さんこんにちは。岩手県北上市から参りました平野と申します。

北上市は岩手県の県南内陸に位置する都市で、人口は9万人余りです。隣に花巻市という、宮沢賢治ですか、今は菊池雄星、大谷翔平を輩出した花巻東高校で世界的にも有名になっている都市があります。昨日のプロ野球ドラフト会議でソフトバンクに佐々木麟太郎という花巻東高校出身の選手が指名されましたが、佐々木麟太郎は北上市出身でございます。これを機に北上市も覚えていただければと思います。本日はどうぞよろしくお願ひします。

山形市／森谷インバウンド推進室長

皆様、お世話様でございます。山形市インバウンド推進室長の森谷と申します。よろしくお願ひいたします。

先日、アメリカの旅行メディア、ナショナルジオグラフィック(National Geographic)の「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に、昨年度の金沢市様について山形県が選出されました。山形市には、その中で紹介されている山寺や蔵王がありますので、ぜひ皆様も山形にお越しくださいますようお願ひします。

次に、イベント情報となります。仙台市様との連携事業として、11月21日から23日の3日間、大宮の「まるまるひがしにほん」において、「仙台・山形市観光物産展」を開催します。

また、11月1日には、山形駅西口「やまぎん県民ホール イベント広場」において、『「ラーメン県そば王国」フェスタ in やまがた』が開催されます。ラーメン消費額日本一の山形市のラーメン店も出店しますので、どうぞ皆さんお越しいただきまして、秋を堪能していただければと思います。本日はどうぞよろしくお願ひします。

福島市／杉内商工観光部長

皆様、こんにちは。「納豆のまち」福島市から参りました商工観光部部長の杉内と申します。どうぞよろしくお願ひします。

納豆と言いますと、茨城県の水戸市が皆さん頭に浮かぶかなと思います。実は、福島市は大豆の生産もほとんどなく、加工もほとんどしていないのですが、総務省で行っている世帯ごとの家計調査で、納豆の一世帯当たりの消費額が、ここ連続して日本一を獲得しています。なぜ日本一かの理由は、市民である私もわからないのですが、納豆を好むまちということで、「納豆のまち」というシティプロモーションを行っている次第です。

本日は、皆様とともに地方創生に向けて福島市も頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

郡山市／大嶋総合交通政策課長

郡山市総合交通政策課長の大嶋と申します。

郡山市は、昨年、令和6年に市制施行100周年を迎えまして、先人たちの築いた歴史を次世代の子どもたちに引き継ぐということをキーワードに、様々な記念事業を実施しました。また、今年4月に新市長が誕生し、新たな市政が動き出しています。選ばれるまち、暮らしの充実・笑顔になれるまち、経済の活性化という3本柱を掲げ、夢を抱ける未来構築実現ということを目指して市政運営がスタートしています。

今後も皆様方と連携協力に努めたいと思っております。よろしくお願ひします。

新潟市／関川観光・国際交流部長

皆様、こんにちは。新潟市観光・国際交流部の関川と申します。本日は、市長が出るべきところでございますが、公務の都合により私のほうで代理として出席させていただいています。

昨年この会議で、私たちの新潟市内にある和菓子屋の大福を、さいたま市様がご用意くださって味わっていただいたと思いますが、今年は「東日本 秋の旬フェス」ということで、笹団子と3色団子を持ってまいりました。お昼を食べている間に完売したということで、大好評を得ています。ぜひ皆様方についても、機会があ

れば食していただきたいと思います。

また、昨年もここでお話をさせていただきましたけれども、3月には「にいがた酒の陣 2026」が開催されます。会場内では500種類の日本酒が飲めるという触れ込みです。ぜひ多くの方々に新潟に足を運んでいただいて、新潟の食を堪能していただければと思います。本日はどうぞよろしくお願ひします。

三条市／片野経済部長

皆さん、こんにちは。新潟県三条市経済部長の片野と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。人口約90,000人、上越新幹線燕三条駅が玄関口というところです。

当市は、ものづくりのまちとしての産業、観光、よく知られているところだと「工場の祭典」というイベントをやっています。また、豊かな自然と、国内有数のアウトドアメーカー集積地で、アウトドアの聖地としての観光振興、この2つを柱に展開している自治体です。

広域観光としては、本日、後半でお時間を頂戴して情報共有をさせていただきますが、国道289号「八十里越」の開通が一番ホットな話題です。本日はどうぞよろしくお願ひします。

金沢市／上寺経済局長

金沢市経済局長の上寺です。先ほど山形市様からも少しお話をいただきましたが、昨年、ナショナルジオグラフィック(National Geographic)のほうに、「2025年に行くべき世界の旅行先」の1つに選ばれています。おかげさまで、欧米豪を中心としたインバウンドの方々が金沢のまちに来ていただいています。

11月6日にはカニの解禁日があります。冬になると、海の幸が非常に美味しいとなるということで、さらに力を入れておりますので、ぜひ金沢市、それから小松市長もお見えになっておりますが、北陸の方にも足を運んでいただいて、おいしい魚を食べていただければと思います。本日はよろしくお願ひします。

さいたま市／馬場商工観光部長

次に、ご臨席いただいております、さいたま市関係団体の皆様をご紹介いたします。

公益社団法人さいたま観光国際協会会長 筑波伸夫様、公益財団法人さいたま市産業創造財団常務理事会田浩一様、東日本連携推進協議会代表幹事 株式会社高島屋大宮店店長 桜庭周清様。

以上の皆様にご臨席いただいております。本日、どうぞよろしくお願ひします。なお、さいたま商工会議所会頭 池田一義様におかれましては、ご都合により会議の途中からご参加いただく予定となっております。

続きまして、議題に移らせていただきます。本日の座長は、主催のさいたま市長が務めます。清水市長、よろしくお願ひします。

「3. 議題」

さいたま市／清水市長

改めまして、さいたま市長の清水勇人です。主催者ということでございますので、大変恐縮ではございますが、座長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

今回のフォーラムでは、3つの議題について議論を行い、その後、次年度に向けた取組、また、昨年のフォーラム以降に行った連携事業について各都市よりご報告をいただきまして、最後に、連携事業以外で広く皆様に知っていただきたいイベントや取組等について各都市から情報共有をいただきたいと思っています。

それでは、早速議事に移らせていただきます。

議題(1) デジタルスタンプラリーの実施について

議題(1)「デジタルスタンプラリーの実施について」私から説明をいたします。資料をご覧ください。

観光部門の新たな取組みとして、デジタルスタンプラリーを提案いたします。東日本連携都市の回遊性を向上させることを目的に、各都市1つずつスポットを設定し、集めたスタンプの数に応じてプレゼント抽選に参加できることを想定しています。開催期間は、令和8年度中で調整できればと考えています。

テーマは、各都市のPRキャラクターとし、スタンプのデザインにもキャラクターを活用したいと考えています。各都市の皆様には情報発信やスポット、PRキャラクターの調整等をお願いしたいと考えています。参加都市全体で盛り上げたいと考えていますので、ご協力の程、お願いいたします。

続きまして、3ページをご覧ください。今回の事業については、参加要件として1万円をお願いしておりますが、観光協会等との連携も可能です。いただいた負担金は、景品や広報物などの充実に活用し、事業の効果を高めたいと考えています。

事前の参加意向調査では、25都市の皆様から前向きな回答をいただいている。初めての試みとして、事業への期待の高さを実感しています。来年度予算についてはまだ調整中と存じますが、広域での連携が鍵となると考えていますので、この事業を成功に導くために、ぜひ皆様のご協力をお願いします。

詳細につきましては、今後、調整、協議をしながら、内容をより具体化していきたいと考えています。また、現段階で参加を希望しない都市の皆様についても、今回の結果を踏まえて再検討をしていただける場合は、改めて個別にご相談をいただければと思っておりますので、よろしくお願いします。

今後のスケジュールについては記載のとおりです。

この議題につきましてご発言等ありましたら、挙手をお願いしたいと思います。それでは那須塩原市、渡辺市長お願いします。

那須塩原市／渡辺市長

デジタルスタンプラリーは、広域でやるにはいいのかなと思いますので、本市としてもやってみたい。テーマはPRキャラクターということですが、スポット選定についても何かターゲティングができればよりいいのかなと思っていますので、そのあたりも踏まえた上でぜひやっていきたい。

さいたま市／清水市長

ありがとうございます。スポットの選定についての少し工夫といいますか、ターゲット設定なども必要ではないかというご意見を頂戴しましたので、そういった選定方法もあわせて取り入れることで、より効果的な誘客につなげていきたいと考えております。

引き続き、スポットの選定等の詳細については各都市の皆さんと議論を進めていきたいと思います。

そのほかご発言等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。郡山市、大嶋課長お願いします。

郡山市／大嶋総合交通政策課長

本市においては、この件、観光部局が担当しており、担当からは、「ぜひ参加したいので、実施に向けて予算確保に努めていく」ということを伺っています。

また、デジタルスタンプラリーを通じて、参加される方には、景品の贈呈だけではなく、まちを知っていたい、そのまちに关心を持っていただけるような形につながっていくこと、さらには、もっと広く都市間の連携や回遊性が向上して、各都市のつながりがより一層深まるとか強くなっていくことがいいのかなと思っています。

さいたま市／清水市長

デジタルスタンプラリーの実施に向けて予算要求を行っていただいているとのことで、ありがとうございます。多くの自治体にご参加をいただいて都市間の回遊性向上を実現したいと思いますので、様々なご意見も頂戴し、また、いろいろなイベント等をその周辺で行うこともあるかと思いますので、そういった情報なども含めて発信をすることで、より回遊性の向上につなげていってはどうかなと思ったところです。

それでは本議題について取りまとめさせていただきたいと思います。本件については、「東日本地域の回遊性向上のために、デジタルスタンプラリーを令和8年度に開催する」という方針で進めたいと思っておりますが、皆様、いかがでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。（賛成多数）

ありがとうございました。

東日本連携都市 31 都市のうち 25 都市に参加意向をいただいていると聞いておりますので、よりいいものにしていきたいと思っています。最近、インバウンド観光客が日本全体としては好調ですので、そういったインバウンドの観光客、また、インバウンドだけではなくて国内の観光客も含めて、この東日本の様々な地域に回遊していただけるようにしたいと思います。

議題(2) 観光施策等研修ツアーの実施について

続きまして、議題(2) 「観光施策等研修ツアーの実施について」 私からご説明をさせていただきたいと思います。資料の 5 ページをご覧ください。

「観光施策等研修ツアー」は、東日本連携都市の観光担当職員などが、ホスト都市へ出張し、観光施設あるいは観光地等の施策を現地で学んでいただいて、自都市の施策に活かしたり、職員間の交流を促し、新たな連携を生み出すことを目的としたものです。

日程については、令和 8 年度中の開催を予定しており、ホスト都市は上田市になりました。内容については今後検討していくことになりますが、上田市内の観光地について、各施設の観光施策を学んだり、グループワーク等で職員間の交流を図るなどの内容を想定しています。

研修ツアーの参加意向都市数については、予算確保等の条件付きですが、現在、26 都市の皆様から参加の意向をいただいています。

本事業に対する主な意見としては、「各都市の取組みを確認することがプロモーションにおける新たな視点の気づきになる」、「各都市の観光施策について直接見聞きしたり、観光担当課の職員が集まり話をしたりする場はあまりないので、貴重な機会ではないか」など、肯定的な意見を多数いただきました。

また、令和 9 年夏には長野県で「信州デスティネーションキャンペーン」が実施されると伺っています。魅力あふれる上田市の研修ツアーを通じて、皆様とともに地域の観光資源を再発見し、今後の施策に活かしていくと考えています。

ここで、ホスト都市の上田市様から、研修ツアーの開催についてお話を伺いたいと思います。上田市観光シティプロモーション課の清水課長補佐、よろしくお願ひいたします。

上田市／清水課長補佐

皆さんこんにちは。上田市観光シティプロモーション課課長補佐の清水と申します。ただいま清水市長からご提案いただきましたように、上田市は、人口約 15 万人余の都市で、北陸新幹線の上田駅は大宮駅から約 70 分の距離にあります。

今から 10 年ほど前、2016 年には NHK 大河ドラマ「真田丸」の放映があり、ちょうど来年 10 年目を迎えるところです。夏はスポーツの聖地、菅平高原や美ヶ原高原、別所温泉、鹿教湯温泉といった 2 つの高原と温泉などがあり、非常にポテンシャルの高い地域です。ツアーの開催時期については、7 月の上旬頃を予定しております。

この機会に東日本連携都市の皆様とさらなる交流を深めていけるよう、取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

さいたま市／清水市長

清水課長補佐、ありがとうございました。

ホスト都市の上田市様については、日程調整、ツアーサイトの選定でご尽力を賜ることとなると思いますが、来年度の実施に向けて、どうぞよろしくお願ひします。

この議題につきましてご発言等ありましたら、挙手をお願いします。みなかみ町の阿部町長、お願ひします。

みなかみ町／阿部町長

みなかみ町の阿部です。先ほど上田市の清水課長補佐からお話をあったとおり、実はみなかみ町も真田街道で上田市さんとは大変良いお付き合いをさせていただいております。上田まつりがこの間終わったかと思うのですが、昨年は参加させていただきました。今年は公務の都合で欠席をさせていただきました。そんな関係で、信州と上州もいろいろな昔の繋がりがある自治体もあります。

自治体間の観光行政に携わる職員の皆様が一堂に会していろいろ学ぶ機会というのは、これは首長としても大変大切なことだと認識しています。それぞれの自治体、観光が主産業の自治体もありますし、特にみなかみ町は、農林業と観光が主たる産業です。インバウンドも大変多く訪れていただいておりますし、そういう機会にお互いが勉強して研鑽を高めていくという非常に重要な機会だと思っておりますので、みなかみ町もこの構成の一自治体としてぜひ参加をしたいと思っております。

また、いずれか近い将来にはみなかみを主会場にそういう機会が設けられたらいいなと思っていますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げたいと思います。ありがとうございました。

さいたま市／清水市長

阿部町長、ありがとうございました。地域資源は各都市それぞれ違うと思いますけれども、その発信方法などについてはそれぞれ学ぶべきところがあるのではないかと思います。また、連携都市間の交流を深めるという意味でも絶好の機会になるかと思いますので、ぜひ他都市の皆様にも参加いただき、より充実した内容にしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

そのほか、ご発言等がございましたら、挙手をお願いしたいと思います。

よろしいですか。それではないようございますので、本議題について取りまとめをさせていただきたいと思います。

本件については、「ホスト都市の上田市が実施する観光施策等を担当者が学ぶこと、また、職員間交流を促し、新たな連携を生み出すことを目的に実施する」という方針で事業を進めさせていただきたいと思います。皆様、いかがでしょうか。賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。(賛成多数)

ありがとうございます。それでは、議題(2)については、先程申し上げたとおり、取りまとめをさせていただきます。

議題(3) 東日本酒PR販売会の実施について

それでは、続きまして、議題(3)「東日本酒PR販売会の実施について」、私からご説明します。

「東日本酒PR販売会の実施について」、これは、東日本連携の枠組みを生かし、各都市自慢の地酒あるいはクラフトビール、またワインなどをPR販売するイベントです。

日程については、令和8年度中に開催したいと考えており、今後、連携都市の皆様と議論を深めてまいりた

いと考えております。場所につきましては、大宮駅前で PR 効果も高いまるまるひがしにほんにて開催を予定しています。酒蔵などの出展者や自治体職員が来館者とのコミュニケーション等を図りながら酒類を販売し、各都市を PR することを考えています。8 月に各都市へ参加照会を行ったところ、現在 23 都市が参加意向を示しています。「地方の酒蔵の知名度向上につながるほか、来館者にとっても普段飲んだことがないお酒に触れる貴重な機会にもなる」など、肯定的な意見もございました。

なお、資料下部の写真は、令和 7 年 9 月 17 日にまるまるひがしにほんで開催した「東日本のお酒商談会 & PR 試飲販売会」の様子です。こちらは商談会に重きを置いたイベントで、一般の方も同時に入場を可能とし、大いに盛り上がりました。令和 8 年度の開催に向けて、内容を皆様と引き続き検討したいと思います。

ちなみに、まるまるひがしにほんで日本酒の試飲が非常に好評で、それを楽しみの一つに、まるまるひがしにほんに毎年 100 万人を超える方々が来館しています。日本酒がまるまるひがしにほんの売りの一つになっています。

説明は以上です。この議題についてご発言等ありましたら、挙手をお願いします。会津若松市の室井市長、お願いします。

会津若松市／室井市長

東日本連携都市には様々なお酒がありますが、会津地方も酒どころです。夏に飲む酒もなかなかいいもので、時期も非常によろしいかなと思いますし、会津にとっては有力な特産品で、県単位ではありますが、全国新酒鑑評会では、福島県は今年 1 位に復活しました。その半分の蔵元が会津地方の蔵元ですので、会津地方を挙げて参加をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。連携都市の中には会津若松市のような酒どころも多く、それが一堂に会するということで、大変興味深いイベントになるのではないかと思います。

本市でも時々こういった市内あるいは県内の酒蔵を集めたイベントをしていますが、たくさんの方々にお集まりいただき、非常に興味深いイベントとなっていると思います。ぜひ多くの連携都市に参加いただければと思います。

そのほか、ご発言ございましたらお願いしたいと思います。金沢市上寺局長、お願いします。

金沢市／上寺経済局長

金沢市には 4 つの酒蔵があります。そのうち、福光屋というお店の醸造蔵で、能登半島地震で被災した能登町の鶴野酒造店の救出した酒米を 100% 使用、そして酵母はそれぞれの酒蔵の 2 種類を使用して仕込みを行い、能登復興応援酒として醸造をしています。

お酒の名前も、両蔵元の頭文字の一字を取りまして、「鶴と福」として販売を行っています。本日の交流会にも持ってきておりますので、ぜひお楽しみいただければと思っています。また、日本酒以外にも、クラフトビール、ジンを製造している事業者も金沢にはありますので、PR 販売会の活用をぜひ検討していきたいと考えています。以上です。

さいたま市／清水市長

はい、ありがとうございます。後ほどご紹介をしたいと思いますが、まるまるひがしにほんでは、能登半島地震によって被害を受けた「輪島朝市」の復興イベントを行い、この PR 販売会においても復興の一助となるよう協力できればと思っています。後ほど、そのお酒も飲めるということですので、最後までお付き合いいただければと思います。

そのほか、ご発言等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは本議題についてまとめをさせていただきたいと思います。本件については、「東日本酒 PR 販売会を開催する」という方針で事業を進めさせていただきたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。挙手をお願いします。(賛成多数)

ありがとうございます。それでは、この議題(3)については、先ほどご説明をしたとおり取りまとめをさせていただきたいと思います。本日予定されております議題は全て終了いたしました。

それでは、ここで10分間の休憩時間を設けさせていただきます。なお、会津若松市の室井市長はお時間の関係で、ここで退席となります。ありがとうございました。休憩後から、卯月商工課長にご登壇をいただくことになっておりますので、引き続きよろしくお願ひします。

休憩後からは、これまでやってきた様々な活動報告となります。どんな活動をしてきたのかも含め、引き続きご参加をいただきたいと思います。再開は14時55分の予定です。

(休憩)

「4. 次年度に向けた取組について」

さいたま市／清水市長

次第4 次年度に向けた取組について、小松市の宮橋市長よりご説明をお願いします。

小松市／宮橋市長

改めまして、小松市の宮橋です。この度は、次年度に向けた取組みについて発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

今回、本市からは、東日本の各新幹線沿線自治体の皆様が連携を強化させ、地域が抱える人口減少や高齢化社会の課題に対応するとともに、カーボンニュートラルと地域資源の活用、保全を図る施策の1つとなればということで提案させていただくものになります。次年度に向けた取組みとして、本市からは、森林の整備を通じたカーボンオフセットに係る連携についてご提案、ご説明させていただきたいと思います。

連携都市の皆様においては、本フォーラムで、都市間連携事業のほか、2050年カーボンニュートラルの達成に向けて各種取組を推進していることだと思いますが、その実現は市単体での取組みでは決して容易ではないと捉えています。一方で、特に本市のような地方都市においては、地域にある大切な資源を生かして、そして守っていくことが重要です。地域の約7割を占める森林、里山地域をしっかりと整備して、適切に管理していくことが求められています。そういう取組みは、防災機能の強化だけではなく、地域の自然環境や文化を守ることにも繋がるほか、昨今盛んに言われている熊など生物多様性の保全にも欠かせないものであるというふうに捉えています。

カーボンニュートラルと森林の適正な保全、それらを達成するために、本フォーラムの機会を通じて、皆様と情報共有をしながら、その施策について提案させていただきたいと思います。市や地域の枠を超えて複数の自治体が手を取り合い、ともに行動することで、脱炭素社会に向けた取組みが広がるのではないかと考えています。

具体的な事業連携のイメージについてですが、主に都市部の自治体を想定した拠出市に交付される森林環境譲与税やその他の財源を活用し、整備市となる森林の多い他の地域と他の自治体と連携し、財政支援を通じた森林整備や交流事業を行うものです。整備市の地域内で森林を手入れ、管理する取組みを行い、その活動を通じて生まれるCO₂を吸収する働きを県などに認定していただき、その成果を協力してくれた拠出市に還元します。拠出市は、この仕組みによって森林が吸収したCO₂を自分たちの成果として活用ができる、カーボンニュー

トルの実現に近づける効果が期待されます。また、整備市にとっては、森林が適切に手入れされて守られるというメリットもあります。このようにお互いが協力することで、地域の枠を超えた環境保全の仕組みが推進していくのではないかと考えています。また、その整備された森林を活用して環境について学ぶ活動や自治体間での交流イベントなどにつなげていくことも考えられますし、自治体同士が協力しながら地方を元気にしていくというこのフォーラムの目的にも役立つのではないかと考えています。

このような取組みは既に一部の地域間では行われているものと承知していますが、本フォーラムにおいても、次年度に向けた取組みとして検討を進めていくことを期待しまして、提案とさせていただければと思います。ありがとうございました。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。ただいま小松市の宮橋市長より、森林整備を通じたカーボンオフセットに係る連携についてのご提案がありましたけれども、これらについて何かご発言等ありますでしょうか。それでは、岩手町の佐々木町長、よろしくお願ひします。

岩手町／佐々木町長

岩手町も75%が森林資源です。ぜひ、今、小松市さんが提案された森林J-クレジットの取組みを我々も進めさせていただきたいなと考えています。

さいたま市／清水市長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。那須塩原市の渡辺市長、お願ひします。

那須塩原市／渡辺市長

私も大変すばらしいご提案、取組みだと思っています。質問になってしまいますが、拠出市と整備市のマッチングはしていただけるのでしょうか。踏み込んだ話で申し訳ないのですが、どうでしょうか。

小松市／宮橋市長

東日本連携の中で、都市部の地域と、より森林の多い地域がそれぞれあって、できれば直接という面もあつたんですけど、これは本当に大きな課題ですので、皆さんで話し合いながら、単独の連携よりも大きな連携をしたほうが効果は大きいのではないかと思っています。どういうふうに連携を、マッチングするかというのは、また今後ご相談をさせていただければと思っています。

那須塩原市／渡辺市長

ありがとうございます。せっかくの機会ですから、この取組みができればいいなと思っていますし、素晴らしい話だと思います。

さいたま市／清水市長

今、カーボンオフセットに係る連携について、それぞれご発言をいただきました。ありがとうございました。

東日本連携・創生フォーラムにおきましても、令和2年度に開催した第6回フォーラムにおいて、さいたま市・みなかみ町が発起人となり、「東日本でつなぐSDGs宣言」を行いました。それ以後、現RB大宮アルディージャ・ツエーゲン金沢・金沢市・さいたま市の4者が連携した「サッカー連携によるフードドライブ」、令和4年7月には「あいづサマースカイフェス2022」にSDGs普及啓発ブースを出展するなどの活動をしてきました。

この提案を契機に、カーボンオフセットに限らず、脱炭素に向けた SDGs の取組みについて連携都市の皆様と来年度に向けて引き続き検討したいと考えています。

また、東日本連携の中では、さいたま市あるいはいくつかの市が、「活用したい」という側の都市にもなるというふうに思っております。

また、これは一つの意見でありますけれども、今さいたま市は政令指定都市市長会に入っていますが、やはり都市部はゼロカーボンシティに向けてかなりハードルがある、それぞれの市が独自ではなかなか難しく、このカーボンオフセットというものを活用していかないと厳しい、そういうたたかの自治体もありますので、そういうところとの連携なども含めて、ぜひみなさんと議論を詰めながらできればと思っています。

さらには、SDGs のもう少し幅広い取組みなども含めて今後検討していきたいというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。賛成の方の拳手をお願いしたいと思います。はい、ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきたいと思います。宮橋市長、ご提案ありがとうございました。

「5. 報告事項」

続きまして、次第5「報告事項」に移ります。

報告事項については、昨年度のフォーラム以降に行った連携事業について、各都市よりご報告いただきます。

報告事項(1) 「東日本まるまるマルシェ」の開催について

さいたま市／清水市長

初めに、報告事項の(1)「東日本まるまるマルシェ」の開催について、私からご報告したいと思います。

本イベントは、昨年度の第10回フォーラムにおきまして、会津若松市様からのご提案で決定したものです。4月、5月、そして6月と、連携都市の皆様に出展いただき、各都市の特産品販売や観光PRを実施したところです。

資料の上部をご覧ください。こちらは、函館市、小山市、魚沼市、さいたま市が参加し、4月に開催した「スイーツフェア」の様子です。函館市は「縄文スイーツ」、小山市は「いちごスイーツ」、魚沼市は「コシヒカリスイーツ」、さいたま市は「さいたまスイーツ」を販売しました。

資料の下部をご覧ください。こちらは、青森市、福島市、会津若松市、小山市、新潟市、さいたま市が参加し、5月に開催した「自慢の逸品フェア」の様子です。青森市はりんごを使った商品、福島市は「ふくしまスイーツ・プレミアム」商品、会津若松市は喜多方ラーメンやくるみゆべし等の菓子類、小山市はクラフトビル、新潟市は米菓や新潟5大ラーメン、さいたま市は「さいたま推奨土産品」を販売しました。

次の資料をご覧ください。こちらの資料は小山市、魚沼市、長野市、上田市、福井市、さいたま市が参加し、6月に開催した「ご当地グルメフェア」の様子です。小山市は小山の豚「おとん」をつかった商品、魚沼市は美雪(みゆき)ますの寿司、長野市は牛乳パン、上田市は美味(おい)だれ、福井市は焼き鯖寿司、さいたま市はうなぎ弁当を中心に、各都市のご当地グルメ等を販売しました。まるまるひがしにほんに複数の都市が合同で出展することは近年あまりなく、キャラクターでの呼び込みや試食、アンケートの実施等各都市が工夫してイベントを盛り上げたこともあり12日間で延べ4万8,000人以上の方にお越しいただくことができました。参加いただいた都市の皆様、ありがとうございました。説明は以上となります。

本件につきましてご発言等ございましたら、拳手をお願いします。福島市の杉内部長、お願ひします。

福島市／杉内部長

福島市です。福島市の売りは何といつても果物です。年間を通じて様々な果物、サクランボ、桃、梨、リンゴ、ブドウ、そして冬にはイチゴといった果物が味わえる、果物の産地です。特に桃は、観光果樹園や市内の

道の駅、直売所には福島県外の方々が車等で訪れていただいております。

令和4年度から毎年、福島市単独でまるまるひがしにほんに出展しておりますが、その際、告知していただいたおかげもございまして、桃を求めて多くの方々にお越しいただいて、大変な盛況となりました。

また、今年度は、東日本まるまるマルシェに出展させていただきました。都合がつかず、職員の派遣はできませんでしたが、第2回に商品のみを発送する形で出展しました。福島市の商品をPRしていただいたスタッフの皆様方に感謝を申し上げます。

単独の出展にも良さはございますが、協議会の他の市と相互に連携することで、来場されるファン層も広くなり、お互いに相乗効果が生まれることから、継続した取り組みに期待しているところでございます。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。効果的なPRができたということで、当市としても大変うれしく思っています。まるまるひがしにほんでは、その他のイベントスペースと違い、商品の販売サポートを手厚くしておりますので、またの機会にぜひご活用いただきたいと思います。その他いかがでしょうか。新潟市の関川部長、お願ひします。

新潟市／関川部長

本市では5月の第2回に参加いたしました。本市ではラーメンの家計内消費額、今回山形市さんもご出席をしておりますが、山形市さんに圧倒的な差をつけられての第2位、全国2位ということに着目をして、昨年度から「日本で一番ラーメンを愛する街」としてラーメンに特化した観光プロモーションを展開しております。このマルシェでも新潟5大ラーメンを販売しました。担当からは、「ラーメンの味の違い」また「地域ごとの特色」を紹介することで、多くのお客様に本市の食や魅力に触れていただいた、ということで報告を受けており、貴重な機会であったというふうに考えています。ありがとうございました。

さいたま市／清水市長

関川部長ありがとうございました。今回のマルシェを通じて、各都市の皆様が効果的なシティプロモーションが出来たというふうに感じていることがわかりました。来年度についても、先ほどの議題にあった「東日本酒PR販売会」の開催を予定しています。こちらにおいても効果的なPRが出来るよう、連携都市の皆様と引き続き検討したいと考えています。その他、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

報告事項（2）まるまるひがしにほんの利用状況について

さいたま市／清水市長

続きまして、報告事項（2）「まるまるひがしにほんの利用状況について」、私からご報告いたします。

まず、令和6年度のまるまるひがしにほんの年間来館者数は約104万人となりました。本日出席の連携都市をはじめ、多くの自治体の皆様に活用いただき、年間来館者数は2年連続で100万人を突破しました。今年度については、先ほど説明した「東日本まるまるマルシェ」に参加いただいた自治体に加え、特許庁、福井県、みなかみ町の皆様にご利用いただきました。ありがとうございました。

また、11月には仙台市と山形市が合同で利用する予定もあります。現在の施設の予約状況については、年内の週末は全て埋まっていますので、年明けや来年の春に向けたシティプロモーションに向けてぜひご相談いただきたいと思います。

続いて、「“さいたま”あんとれすぐーる」です。「“さいたま”あんとれすぐーる」は、市内在住の小学4年生から中学3年生までの児童・生徒が実践的なビジネス体験をするプログラムです。例年テーマを設けて商品

の販売会を実施しており、今回は東日本連携都市をテーマに、函館市、三条市、高岡市、金沢市にオンライン会議や商品の仕入れ先についてご協力いただきました。オンライン会議では、連携都市職員から生徒たちへ各都市の魅力・歴史・特産品等について教えていただきました。生徒たちは学んだことを基に、各都市のPRチラシを作成し、商品販売会を通して多くの方に各都市の魅力をPRすることができました。ご協力いただいた都市の皆様には、夏のイベントが忙しい時期にも関わらず、ご協力いただき誠にありがとうございました。この「あんとれすくーる」は、非常に人気のプログラムで、市内在住の子どもたちが毎年応募をし、連携都市の皆さんに代わって、その都市の魅力を説明しながら、いかにこの商品がすばらしいものかということを説明して、売っていただいているわけです。商品はほとんど完売という状況でした。ご協力をいただいた皆さん、ありがとうございました。

続いて、まるまるひがしにほんを活用した災害復興支援について、説明します。こちらは、昨年6月に行われた「北茨城市的“いいとこ”フェア」の様子です。北茨城市は、令和5年9月に台風の被害を受け、その復興支援イベントとして、まるまるひがしにほんを活用いただきました。名物の「しらす」や「ジャンボシイタケ」が大変人気で、来館者からは、名物のあんこうが旬となる冬の再出展を望む声が多く寄せられるなど、大変好評でした。

資料の下部をご覧ください。こちらは、今年の6月に行われた「輪島朝市 in まるまるひがしにほん」の様子です。輪島朝市は、令和6年1月の能登半島地震及び同年9月の豪雨災害により甚大な被害を受けたことから、その一助となるよう、輪島朝市の皆様がまるまるひがしにほんで出張販売を行いました。また、輪島朝市の方とさいたま市民の交流会も開催し、輪島の現状や、被災当時の避難生活の様子などを直接伺いました。この交流会には、市民の皆さんをはじめ、かなり広域からも来ていただきました。輪島朝市の方から「能登半島地震を忘れないで欲しい」との涙ながらの話も印象的でした。まるまるひがしにほんでは、今後も機会を捉えて災害復興支援に取り組んでいきたいと考えています。

続いて、まるまるひがしにほんで実施している「東日本の商材販路拡大」について報告します。令和4年度から開催している「東日本の食材商談会」ですが、まるまるひがしにほんを核として、市内の飲食・食品加工・卸売の事業者を対象に、東日本各都市の食材を紹介する商談会です。食材の出展については市内農家や東日本連携都市などに協力いただき、販路拡大の余地があるものなどを出展いただき、出展者とさいたま市内の飲食事業者とのマッチング機会の創出に寄与しています。昨年度は約700件のマッチング機会がありました。こちらの商談会ですが、令和6年度は6回開催しました。そのうちの1回、令和7年3月の開催は、日本酒に特化した商談会と一般の方向けの試飲販売会を同時に開催し、大変好評でした。今年度も、資料の日程・テーマで食材やお酒の商談会を開催します。次回、11月の商談会には、秋田県と郡山市の事業者様に出展いただきます。各都市においては、1月以降の出展をぜひご検討いただければ幸いです。

私たちとしては、まるまるひがしにほんは駅前のすごくいい場所で商売をするということが目的ではありません。さいたま市内で、それぞれの東日本連携都市の皆さんのおいしい食材などを購入いただいて、それぞれのお店で出していただいたり、あるいは販売をしていただいたりという、その一つのきっかけづくりをする場所にしていきたいと考えています。ぜひこういった機会をご活用いただければありがたいと思っています。

本件について何かご発言等ございましたら、挙手をお願いしたいと思います。それでは、岩手町の佐々木町長、お願ひします。

岩手町／佐々木町長

先ほどの報告事項（1）にもつながることですが、私どもも昨年11月1日から4日間、まるまるひがしにほんを活用し、岩手町マルシェというものを開催しました。本当にさいたま市は、この大宮駅の東口にすばらしい物産交流のステージを持っていらっしゃいます。ただいまの報告事項（2）の清水市長のお話にもあったとおり、様々な可能性を持った場所だと実感をしたところです。大宮には本当に地の利というものもありますし、

この物産交流・まるまるひがしにほんを通じての人の輪というのもできてきました。私ども人口減少にあえぐ地方都市との交流もこれから盛んにすることで、地方のまちも元気で頑張らなきゃいけないといった形で、「連携・関係人口、交流人口の増加」というプラス思考で、これからまるまるひがしにほんと我々も関わっていければいいなと考えています。

岩手町だけではなく、岩手町の隣の八幡平市、それから葛巻町という北緯40度線上に岩手県の並んでいる市町があるので、そこで共同で「北緯40度物産会」というものを組織しております。その「北緯40度物産会」で、10月31日から11月3日まで、まるまるひがしにほんでマルシェを開催させていただくことになっています。どうぞ皆さん足をお運びいただければと思います。ありがとうございました。

さいたま市／清水市長

佐々木町長ありがとうございます。岩手町特産のキャベツやリンゴは、来館された皆様にも大変好評だったと伺っています。また、ホルモン鍋の試食提供もあり、まるまるひがしにほんが大いに賑わったようです。ご出展いただき、ありがとうございました。その他、よろしいでしょうか、次に進めます。

報告事項（3）みなかみ季節の味覚展と情報交換会について

続いて、報告事項（3）「みなかみ季節の味覚展と情報交換会について」、みなかみ町の阿部町長よりご報告をお願いいたします。

みなかみ町／阿部町長

みなかみ町は、まるまるひがしにほんを有効に活用しています。7月12日～13日に「夏の味覚展」、そして11月29日と30日に「冬の味覚展」ということで、リンゴや菌茸類等を販売する予定です。毎回本当に大勢の方に来場していただいているので、本当にうれしく思っています。やはり人が多いというのは本当にうらやましいなと思って、いつも会場を見ているところです。

みなかみ町の情報交換会もさいたま市を会場にして、首都圏のメディアの関係の方と、旅行会社の方に出席をしていただいて、みなかみ町のPR、そしてこれから迎えるウインターポーツ・スキー場等の営業をしています。その効果もあって、国内の首都圏の大学生とか、また小グループのスキーツアーの方も、コロナ前に近づいているお客様に来町していただいているという状況になっています。これからも連携を深め、しっかり使えるものは使わせていただいて、さいたま市や首都圏の皆様、そして連携自治体の皆様方と交流を深めていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願ひします。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。本件について何かご発言等がございましたら、挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

みなかみ町様には、本年度、まるまるひがしにほんを3回ご利用いただくこととなっており、3回目の出展が11月29日、30日に予定されています。みなかみ町特産の野菜やフルーツは、お客様にも大変好評で、リピーターの方が多く訪れるイベントとして定着をしています。また、先ほどの説明にもございましたが、イベント開催の前日に、まるまるひがしにほんの2階を活用し、記者向けの情報交換会を実施するなどのご活用をいただきました。ありがとうございます。引き続きよろしくお願ひします。

報告事項（4）「つなぐ旅～東日本～」インスタグラムについて

さいたま市／清水市長

続いて、報告事項（4）「つなぐ旅～東日本～インスタグラムについて」、私から報告します。

こちらのアカウントは、令和6年度の東日本連携・創生フォーラム課長会議で承認いただき、連携都市合同インスタグラムとして令和6年7月12日に運用を開始しました。事務局で皆様の投稿スケジュールを作成して共有しておりますが、イベント情報等、いつでも投稿は可能ですので、隨時ご相談いただきたいと思います。現在のフォロワー数・投稿数、及び令和7年1月から9月までの総閲覧数は、資料のとおりとなっています。

「つなぐ旅～東日本～桜フォトコンテスト」についても報告したいと思います。こちらの取組みは、令和6年10月に開催のフォーラムで承認いただき、令和7年3月20日から5月31日まで開催をしたところです。期間中の応募総数は851件で、資料にある10作品を受賞作品として、作品選定・賞品の準備については、各都市の皆様にもそれぞれご協力をいただきました。多種多様な賞品で、東日本の魅力を十分に伝えることができたと感じています。次の資料をご覧ください。それぞれの都市らしさがあらわれた素敵な作品を多数ご応募いただきまして、こちらの10作品が受賞となっております。また、受賞した方々のうち、撮影地にお住まいの方がいる反面、東京都内あるいは横浜市・静岡市など、東日本連携都市の地域を超えた方々からの応募が半数を占めていました。このことから、旅先で桜の写真を撮りコンテストに応募したという様子が伺え、目的であった東日本地域への誘客や、周遊の促進につながったのではないかと考えています。報告は以上です。

これらについては、何か発言がございましたら挙手をお願いしたいと思います。それでは、福島市の杉内部長、お願いします。

福島市／杉内部長

福島市です。福島市では、観光誘客用に公式のインスタグラム「わくわくふくしま」といったもので情報を発信しておりますが、この「わくわくふくしま」に投稿している素材を引用して、つなぐ旅東日本インスタグラムにも投稿いただいたところです。今年度は、春の花回廊に関して花回廊を、また8月に開催される福島わらじまつりの本祭に向けて、去る6月にパートナーシティの豊橋市と大阪関西万博で披露した福島わらじを、9月には福島市で開催された「金曜ロードショーとジブリ展」を投稿いただいたところです。

なお、福島県は春のデスティネーションキャンペーンとして、今年度はプレ開催、来年は本開催を迎えるところです。福島県はご存じのとおり、東日本大震災発災後10年目の節目を迎えることとなり、観光としても重要な期間であることから、さらに幅広く露出できる、このような取組みは大変ありがたいと考えています。引き続きよろしくお願いします。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。その他よろしいでしょうか。次へ進めます。

報告事項（5）「つなぐ旅～東日本～ひがしにほんトラベルガイド」について

さいたま市／清水市長

続きまして、報告事項（5）「つなぐ旅～東日本～ひがしにほんトラベルガイド」について、私から報告します。

本ウェブサイトに掲載しているコンテンツは、大きく分けて、「トピックス記事」、「連載記事」、「特集記事」、「YouTube生配信」です。令和6年度はウェブサイトの閲覧数が30万5,124件を記録し、昨年比174%となりました。こちらは、つなぐ旅公式X（エックス）とも連携しており、情報の拡散に努めています。公式Xは、令和7年3月31日時点で約3万2,000人のフォロワーを獲得しています。連載記事・特集記事・YouTube配信については、各都市の皆様に、掲載や参加の意向をお伺いして実施しています。どちらも大変好評のコンテンツとなっていますので、ぜひ積極的な参加をお願いします。報告は以上です。

これらについて何かご意見・ご発言がありましたらお願いしたいと思います。それでは、無いようすで、次に進めます。

報告事項（6）さいたま市での期間限定アンテナショップの出展について

報告事項（6）さいたま市での期間限定アンテナショップの出展について、会津若松市の卯月課長よりご報告をお願いします。

会津若松市／卯月課長

会津若松市の卯月です。市長に代わってご報告いたします。会津若松市では、今年3月に、さいたま市の大宮マルイにおいて、期間限定となるアンテナショップを出展しました。内容につきましては、会津清酒を提供するショットバーの運営、また会津漆器や特産品等の展示販売、さらには会津藩士の蒲生氏郷公が茶道の千家の存続に大きく関与していたことを知っていただくために、お茶のワークショップを実施しました。期間中は多くの方にご来場いただき、首都圏での認知度向上のために大変良い機会となりました。今後とも皆様方と連携し、効果的なプロモーションに取り組んでいきたいと考えています。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。本件につきまして、発言等がありましたら挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

会津若松市様には、先ほどの大宮マルイをはじめ、さいたま市内の大型ショッピングモールへの出展など積極的なシティプロモーションを行っていただいている、感謝申し上げたい。連携都市の皆様についても、市内の商業施設への出展をぜひご検討いただければと思います。

報告事項（7）イベントを通じた連携について

続いて、報告事項（7）イベントを通じた連携について、私から報告します。

イベントを通じた連携について、観光部門ではイベントによる連携を進め、参加都市のイベントで都市PRを行っております。令和6年度の取組みとしては、みなかみ町様の『藤原湖マラソン』、さいたま市での『さいたまマラソン』、『鉄道ふれあいフェア』などで各都市がブースを出展して、物産の販売・観光PRを実施しました。今年度も引き続き、相互出展での連携を実施していきたいと思います。他都市のイベントに出展したい、自分の都市のイベントに出展してほしいという都市がありましたら、各都市の皆様でもぜひ情報共有をしていただき、連携都市間での相互出展による観光PR促進にご協力いただけすると幸いです。報告は以上です。

本件につきまして、何かご発言等がございましたら、挙手をお願いしたいと思います。それでは、みなかみ町の阿部町長、お願いします。

みなかみ町／阿部町長

先程清水市長からもご紹介いただきました、毎年夏に開催している「藤原湖マラソン」では、さいたま市の方々にご出展をいただきありがとうございます。また、地域間の相互連携というのは、各自治体が持つ個性とか、強みを生かしながら、広域的なつながりを築いていく上で大変意義があるものと感じています。これからも連携自治体間でそのような機会がありましたら、連携を深めていくことは、それぞれの自治体にとって必ずプラスになるというふうに認識をしていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。大規模イベントの相互出展について、引き続き、みなかみ町様と連携を続けていきたいと考えています。また、他の連携都市のイベントで他都市が出展できる大型イベント等がございましたら、積極的にお声がけいただけると幸いです。そのほか、何かご発言ありますでしょうか。それでは、次へ進

めます。

報告事項（8）東日本連携推進協議会について

それでは、続きまして、報告事項（8）東日本連携推進協議会について、代表幹事の株式会社高島屋大宮店店長の桜庭様より、ご報告をお願いします。

株式会社高島屋大宮店店長／桜庭様

東日本連携推進協議会とその取組みについてご報告いたします。

まず初めに、東日本連携推進協議会について紹介いたします。我々は、大宮駅周辺の大型商業施設等7者が連携し、東日本連携を民間主体で推進する組織で、2016年の発足以降、今年で10年目を迎えました。東日本地域との連携交流を促進することで、大宮のまちのにぎわいの創出と東日本地域の振興を目的に活動をしております。令和6年度については、当協議会・企業が共同で実施するプロモーション事業、東日本に関連した催事を開催しましたので、本日はその活動を報告いたします。

まず、共同プロモーション事業としまして、謎解きをしながら大宮駅周辺の街歩きを楽しんでもらう「大宮からの挑戦状」を開催しており、昨年で7回目の開催となりました。北陸新幹線延伸から8か月、一昨年度に引き続き、「恐竜王国 福井県」様にご協力をいただき、恐竜をメインに据えたイベントを実施しました。謎解きをクリアした方には、抽選で福井県の恐竜グッズをプレゼント。また、クーポン利用者へ恐竜シールを配布しました。事前に市内小学校等に告知をしていることもあり、小学生とそのご家族を中心とした、のべ3,153人に参加をいただき、大変盛況のイベントとなりました。

次に、東日本に関連した催事「つながろう！東日本応援フェア」についてご紹介します。東日本応援フェアでは、謎解きイベントの期間に合わせ、協議会各店舗が東日本地域にちなんだ催事を開催しています。パレスホテル大宮では、青森県産の食材を使用したご当地メニュー等を提供し、お客様には青森県を堪能していただきました。

また、そごう大宮店では、あおもり北彩館をはじめとしたアンテナショップが集まり、アンテナショップグルメフェアを開催し、各地の名産品を紹介しました。

ハンズ大宮店では、大宮からの挑戦状が福井県様との恐竜コラボであったため、「鉱物化石フェア～ネイチャーミュージアム～」を開催しました。

大宮マルイでは、福島のフルーツを中心に、全国各地の農家さんから直送される季節のフルーツを使用し、高品質で甘さ控えめの白あんと、求肥で手包みしたフルーツ大福を提供しました。

最後に、今年度の取組みとして、11月1日から16日まで、昨年度と同様、先ほど紹介した謎解きイベント「大宮からの挑戦状」第8弾と、それと連携する形で、各店舗で東日本をテーマにした「つながろう東日本応援フェア」を開催します。今年度は大宮盆栽村100周年ということもあり、盆栽をテーマに、RB大宮アルディージャ様に特別協力をいただき開催します。引き続きご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

さいたま市／清水市長

桜庭店長ありがとうございました。本件について、何かご発言等がありましたら挙手をお願いします。

東日本連携推進協議会の皆様には、毎年大宮からの挑戦状を開催していただいており、ありがとうございます。また、これによって大宮駅周辺の回遊性が非常に高まっています。今回は、大宮盆栽村100周年をテーマとして、RB大宮アルディージャ様にも特別に協力をいただき、多くの方にお楽しみいただける内容となっておりますので、会場の皆さんもぜひご参加ください。他に、何かございますでしょうか。それでは、次に移させていただきたいと思います。

「6. 情報共有」

情報共有 (1) 「大ゴッホ展」の開催及び温泉地での国際会議の開催について

さいたま市／清水市長

続きまして、次第6 情報共有についてです。

こちらは、連携事業以外で、本日ご出席の皆様に広く周知したいイベントや取組みを発信いただく場となっています。

情報共有 (1) の「大ゴッホ展」の開催及び温泉地での国際会議の開催について、福島市の杉内商工観光部長より情報共有をお願いします。

福島市／杉内商工観光部長

それでは、福島市から情報共有をいたします。こちらは福島県と県内の福島市を含む各団体、自治体が共同で開催するものです。福島県誕生150周年、また、東日本大震災から15年の節目となる令和8年と翌年の令和9年の2年にわたりまして、「大ゴッホ展」が開催されます。期間中は、デスティネーションキャンペーン期間で、オール福島市で皆様をお迎えします。会期と内容については、記載のとおりです。第1回目が、来年の2月21日から、「夜のカフェテラス」が21年ぶりに来日するゴッホの作品となります。また、第2回は令和9年の6月19日から、こちらは69年ぶりに来日する「アルルの跳ね橋」などのゴッホの作品が展示されるものです。こちらはゴッホ作品のコレクションで世界的に有名な、オランダのクレラー・ミュラー美術館所蔵のゴッホ作品を中心に展示するものとなっております。会場は福島県立美術館で、福島市内にあります。JR福島駅からは飯坂電車といった電車がありまして、福島駅から2つ目の駅を降りるため、乗車時間は4分ほどで到着します。また、福島駅から徒歩でも行けますが、約1.5キロメートルといったことで、大宮駅から氷川神社ぐらいの距離間と思ってください。時期によっては、歩いて美術館・展示会場の方に向かっていただくのも十分可能かと思います。

このゴッホ展に関しては、せっかくゴッホ展・福島市においていただいた際には、ぜひ福島市に滞在していただくことをおすすめしたいと思っています。福島市は交通の結節点・要所・ハブの機能を持っています。これは鉄道・高速道路、両方のハブ機能を持っています。福島市からJRを使うと、仙台までは20分ほど、米沢までは30分、山形までは70分といったことで、福島を起点に各地へ足を延ばしていただくことも可能です。

また、バスでは、会津若松市まで90分ほどで行けるため、ぜひ福島市で長期滞在いただいて、福島近隣の各自治体の観光地も回遊いただければと考えています。1点目は以上となります。

次のページをご覧ください。福島市は、奥州の三名湯と数えられる福島市の飯坂温泉で国際会議が開催されることとなりました。これは世界中から原子核物理学の研究者が集まる国際会議ARISといった会議です。2014年に東京で開催された後、約12年ぶりに日本で開催される学会です。今年の3月福島市は、観光庁より福島県内で初めてとなる国際会議観光都市に認定を受けたところで、今回国際会議の開催となったところです。会期と内容は記載のとおりですが、来年6月に1週間ほど開催し、日本・アメリカ・フランス・中国など約400名の参加者を見込んでいます。こちらは飯坂温泉で開催するのですが、この国際会議の事務局の皆様が、「ぜひ温泉地で国際会議をしてみたい」という強い意向がございまして、飯坂温泉での開催が決定したところです。単身で訪れる方々向けの宿泊プランなども醸成しまして、会議で疲れた後は温泉で体を癒すこともできるよう準備を進めています。

また、会議期間中のエクスカーションとして、果物狩りや磐梯吾妻スカイラインなど、福島の魅力を体験できる企画も計画しています。

福島市では、温泉地での国際会議から小規模な研修まで、受け入れることが可能となるよう準備を進めています。また、令和11年に向け、福島駅前では新たに1,000名を超える会議・大会・学会ができるコンベンションホールの施設整備を進めて、MICE誘致に力を入れています。

この飯坂温泉ですが、これから冬の時期となりますので、ぜひ皆様にも足を運んでいただければと思います。この大宮駅からは、新幹線ですと 70 分ほど、直通は 60 分ほどで福島駅に到着します。福島には、飯坂温泉・土湯温泉・高湯温泉と 3 つの温泉がありまして、それぞれ泉質の違った特徴のある温泉地です。ぜひこの三名湯を巡っていただいて、温泉地には公衆浴場もそれぞれありますので、公衆浴場を巡っていただいて、銭湯の気分を懐かしんでいただければと思います。福島市から 2 つの情報共有ということで報告させていただきました。ありがとうございました。

さいたま市／清水市長

杉内部長ありがとうございました。本件について何かご発言等はございますでしょうか。
それでは、無いようですので、次に進めます。

情報共有（2）国道 289 号（八十里越道路）の開通について

情報共有（2）国道 289 号（八十里越道路）の開通について、三条市の片野経済部長より情報共有をお願いします。

三条市／片野経済部長

三条市経済部の片野です。この八十里越ですが、当市・新潟県三条市と福島県を結ぶ国道 289 号を八十里越道路といいます。これが実は着工から実に 40 年を経て、悲願の開通まであとわずかというところに迫っています。この八十里越という名称ですが、古くから越後と会津を結ぶ街道の一つでありまして、八里、キロメートルでいうと 32 キロメートルが実は正しい距離なんですけれども、この山道が実感としては 10 倍の八十里・320 キロメートルにも感じられると言われた、大変厳しい越後山脈越えの峠道だったということが由来になっています。この八十里越の開通によって、これまでの両県の距離と移動時間が大幅に短縮されます。これを機に、今後、国道 289 号沿線の自治体がそれぞれに持つ歴史・文化・産業などの観光資源が連なることで、周遊型・滞在型の観光の可能性がグッと高まっていくということを期待しているところです。現在は、福島県側の玄関口となります只見町様、あるいは南会津町様と連携をしながら、広域連携事業等の様々な検討・実施をしているところです。そのひとつとして、今日お配りしたパンフレットになりますが、現在この区間の中には 2 号橋梁・5 号橋梁、それから 8 号トンネル、そして 9 号トンネルについて、それぞれ広く名称募集を行っているところです。詳しくはご覧いただきたいと思いますが、賞金もあります。まだそんなに多くエントリーは来てないというふうにも聞いており、11 月 14 日まで募集をしておりますので、周知・PR へのご協力、あるいは積極的なご応募をいただければと思っています。三条市からは以上です。

さいたま市／清水市長

ありがとうございました。ただいまの国道 289 号、八十里越道路の開通について何かご発言等ありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、以上で本日の議題は全て終了いたしました。長時間にわたり、誠にありがとうございました。

＜とりまとめ＞

最後にまとめをさせていただきます。

まず、議題（1）デジタルスタンプラリーの実施については、東日本地域の回遊性向上のために、デジタルスタンプラリーを令和 8 年度に開催することとするという方針で事業を進めていくこと。

また、議題の（2）観光施策等の研修ツアーの実施については、ホスト都市の上田市が実施する観光施策等を

担当者が学ぶこと、また、職員間交流を促して新たな連携を生み出すことを目的に実施するという方針で事業を進めていくこと。

また、議題（3）東日本酒PR販売会の実施については、東日本連携都市自慢の地酒であるとか、あるいはワインなどのPR販売を目的とした東日本酒PR販売会を開催するという方針で事業を進めていくことについて、それぞれご賛同をいただいたところでございます。

今後は、これらの方針に基づき、皆様と連携事業を実施していかなければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。最後に、全体を通じてご意見・ご質問等がありましたら挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、無いようですので、皆様には円滑な議事進行にご協力をいただきまして、全ての議事が終了いたしました。活発なご議論をいただき、ありがとうございました。それでは進行を司会に戻したいと思います

「7.閉会」

さいたま市／馬場商工観光部長

参加自治体の皆様、清水市長、ありがとうございました。今後は、本日の議題も含めまして、さらに、東日本各都市の皆様と連携を深めてまいりたいと思います。それでは以上をもちまして、「第11回東日本連携・創生フォーラム」を終了させていただきます。ご参加いただきました市長、町長をはじめ、連携都市の皆様には公務ご多用のところ長時間にわたり、参加いただき誠にありがとうございました。